

○企業別タクソノミ作成ガイドライン（その2：IFRS適用提出者用）一部改正新旧対照表

新	旧																						
<p>表紙</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">IFRSタクソノミ2010 対応</div> <p>1-2 前提となる文書</p> <p style="text-align: center;">表 1-1 本書の前提となる文書</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">No</th> <th>文書名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>XBRL Specification 2.1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>XBRL Dimensions 1.0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>FRTA (Financial Reporting Taxonomy Architecture) Recommendation-errata 2006-03-20 (以下「FRTA」という。)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>GFM(Global Filing Manual) Version: 2010 - 10 - 12</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>企業別タクソノミ作成ガイドライン（その1）*</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>*: EDINETタクソノミ対応の「企業別タクソノミ作成ガイドライン」（2011年3月14日）を本書では便宜上「企業別タクソノミガイドライン（その1）」と表記します。</small></p> <p>1-3 参考となる文書</p> <p>本書におけるIFRSタクソノミの記述は、「IFRS Taxonomy Guide」を参考としています。 IFRSタクソノミと「IFRS Taxonomy Guide」は、IFRS財団(IFRS Foundation)のWebサイト(http://www.ifrs.org/Home.htm)上で入手が可能です。</p> <p>2-1 タクソノミの全体像</p> <p>EDINETを用いて有価証券報告書等を提出する企業等(以下「提出会社」という。)が、有価証券報告書等に含まれるIFRSに準拠した財務諸表をXBRL形式により提出する場合、XBRLのタクソノミが必要となります。IFRSに準拠したXBRLのタクソノミは、IFRS財団が提供するIFRSタクソノミと、IFRSタクソノミをベースタクソノミとして提出会社が拡張する企業別タクソノミがあります。提出会社は、企業別タクソノミを作成し、企業別タクソノミからインスタンス(以下「報告書インスタンス」という。)を作成し、EDINETに企業別タクソノミと報告書インスタンスを提出します。</p> <p><small>IFRSタクソノミではInterim Releaseとして、IFRSの改正を取り込んだ版がIFRS財団のWebサイト(http://www.ifrs.org/Home.htm)上で提供されています。提出会社は必要に応じてこのIFRSタクソノミを使用することが可能です。</small></p> <p>2-2EDINET タクソノミ利用時の場合との主な相違点</p> <p>■ 企業別タクソノミの構造について</p> <p><small>IFRSタクソノミを使用した場合の企業別タクソノミの構造は基本的にEDINETタクソノミの場合と同様ですが、EDINETタクソノミに用意されていた業種別タクソノミやパターン別リンクベースファイルはIFRSタクソノミには存在しません。IFRSタクソノミに関する詳細は「2-3-1 IFRSタクソノミについて」を参照して下さい。</small></p>	No	文書名	1	XBRL Specification 2.1	2	XBRL Dimensions 1.0	3	FRTA (Financial Reporting Taxonomy Architecture) Recommendation-errata 2006-03-20 (以下「FRTA」という。)	4	GFM(Global Filing Manual) Version: 2010 - 10 - 12	5	企業別タクソノミ作成ガイドライン（その1）*	<p>表紙</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">IFRSタクソノミ2009 対応</div> <p>1-2 前提となる文書</p> <p style="text-align: center;">表 1-1 本書の前提となる文書</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">No</th> <th>文書名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>XBRL Specification 2.1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>XBRL Dimensions 1.0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>FRTA (Financial Reporting Taxonomy Architecture) Recommendation-errata 2006-03-20 (以下「FRTA」という。)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>企業別タクソノミ作成ガイドライン（その1）</td> </tr> </tbody> </table> <p>1-3 参考となる文書</p> <p>本書におけるIFRSタクソノミの記述は、「IFRS Taxonomy Guide」を参考としています。 IFRSタクソノミと「IFRS Taxonomy Guide」は、国際会計基準審議会(International Accounting Standards Board、以下「IASB」という。)のWebサイト(http://www.iasb.org/Home.htm)上で入手が可能です。</p> <p>2-1 タクソノミの全体像</p> <p>EDINETを用いて有価証券報告書等を提出する企業等(以下「提出会社」という。)が、有価証券報告書等に含まれるIFRSに準拠した財務諸表をXBRL形式により提出する場合、XBRLのタクソノミが必要となります。IFRSに準拠したXBRLのタクソノミは、国際会計基準委員会財団(International Accounting Standards Committee Foundation、以下「IASCF」という。)が提供するIFRSタクソノミと、IFRSタクソノミをベースタクソノミとして提出会社が拡張する企業別タクソノミがあります。提出会社は、企業別タクソノミを作成し、企業別タクソノミからインスタンス(以下「報告書インスタンス」という。)を作成し、EDINETに企業別タクソノミと報告書インスタンスを提出します。</p> <p>2-2EDINET タクソノミ利用時の場合との主な相違点</p> <p>■ 企業別タクソノミの構造について</p> <p><small>IFRSタクソノミのインポート・参照にはエントリーポイントの作成が必要となるため、企業別タクソノミは2層構造となります。エントリーポイントに関する詳細は「2-3 タクソノミの構造」を参照して下さい。また、EDINETタクソノミに用意されていた業種別タクソノミやパターン別リンクベースファイルはIFRSタクソノミには存在しません。</small></p>	No	文書名	1	XBRL Specification 2.1	2	XBRL Dimensions 1.0	3	FRTA (Financial Reporting Taxonomy Architecture) Recommendation-errata 2006-03-20 (以下「FRTA」という。)	4	企業別タクソノミ作成ガイドライン（その1）
No	文書名																						
1	XBRL Specification 2.1																						
2	XBRL Dimensions 1.0																						
3	FRTA (Financial Reporting Taxonomy Architecture) Recommendation-errata 2006-03-20 (以下「FRTA」という。)																						
4	GFM(Global Filing Manual) Version: 2010 - 10 - 12																						
5	企業別タクソノミ作成ガイドライン（その1）*																						
No	文書名																						
1	XBRL Specification 2.1																						
2	XBRL Dimensions 1.0																						
3	FRTA (Financial Reporting Taxonomy Architecture) Recommendation-errata 2006-03-20 (以下「FRTA」という。)																						
4	企業別タクソノミ作成ガイドライン（その1）																						

■ 持分変動計算書について

EDINETタクソノミの株主資本等変動計算書では1種類の表示リンクと2種類の計算リンクを設定しますが、IFRSタクソノミの持分変動計算書では表示リンクと計算リンクの設定に加えてXBRL Dimensionsを使用し、定義リンクを設定します。持分変動計算書に関する詳細は「12-1 持分変動計算書」を参照して下さい。

■ XBRL Dimensions の使用について

IFRSタクソノミでは、次のような情報を表現する場合にはXBRL Dimensionsを使用します。XBRL Dimensionsに関する詳細は「6-2 XBRL Dimensions関連の要素について」を参照して下さい。

- ・ 個別財務諸表
- ・ 過年度遡及修正
- ・ 非継続事業（※）
- ・ セグメント情報
- ・ 企業結合
- ・ IFRS 初度適用時の調整表
- ・ 持分変動計算書

※損益計算書等において、非継続事業に関する項目を利用する場合、XBRL Dimensionsを利用することに留意して下さい。

2-3 タクソノミの構造

IFRSタクソノミを使用して作成するタクソノミの構造は、以下の図2-1のようになります。企業別タクソノミは、企業別タクソノミスキーマ及び企業別のリンクベースファイルから構成されます。

本書では、あるファイルが他のファイルを読み込むためにschemaRef要素やlinkbaseRef要素を用いることを「参照する」といい、import要素のschemaLocation属性を用いることを「インポートする」といいます。

■ 持分変動計算書について

EDINETタクソノミの株主資本等変動計算書では1種類の表示リンクと2種類の計算リンクを設定しますが、IFRSタクソノミの持分変動計算書では2種類の表示リンクと1種類の計算リンクを設定します。持分変動計算書に関する詳細は「12-1 持分変動計算書」を参照して下さい。

■ XBRL Dimensions の使用について

IFRSタクソノミでは、次のような情報を表現する場合にはXBRL Dimensionsを使用します。XBRL Dimensionsに関する詳細は「6-2 XBRL Dimensions関連の要素について」を参照して下さい。

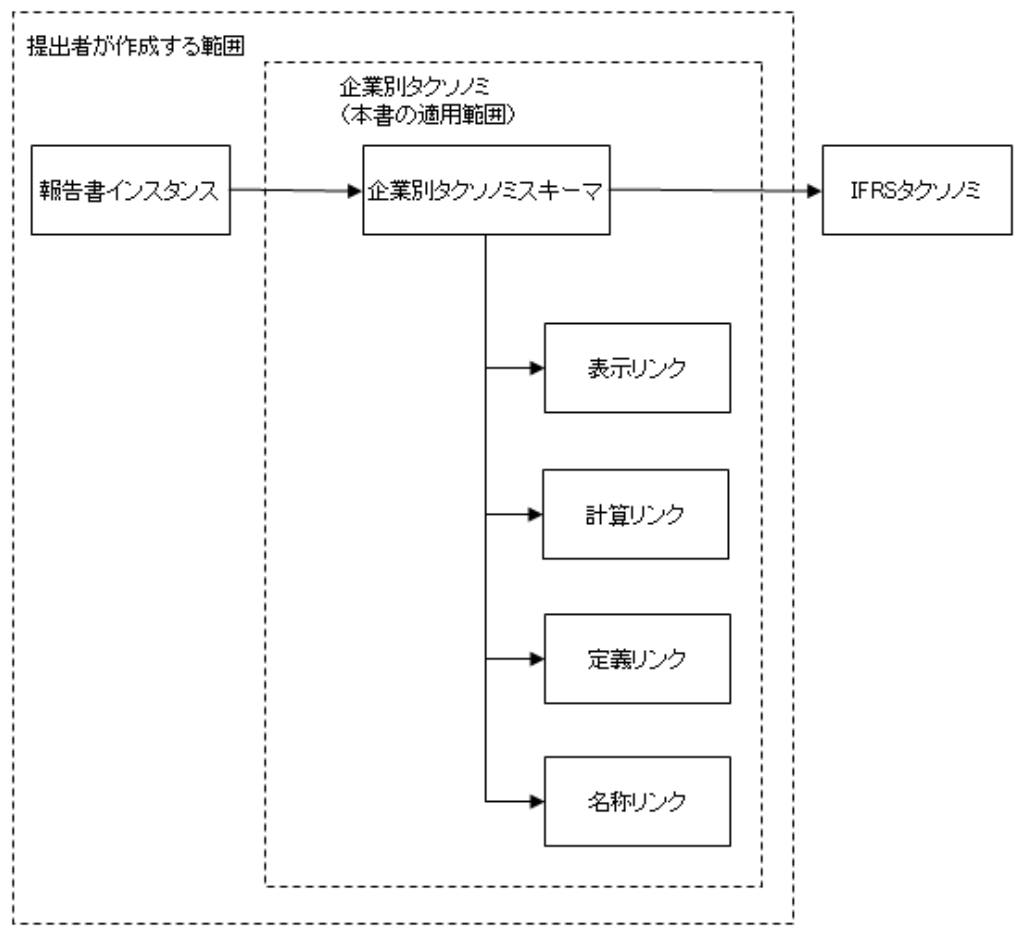
- ・ 個別財務諸表
- ・ 過年度遡及修正
- ・ 非継続事業（※）
- ・ セグメント情報
- ・ 企業結合
- ・ IFRS 初度適用時の調整表

※損益計算書等において、非継続事業に関する項目を利用する場合、XBRL Dimensionsを利用することに留意して下さい。

2-3 タクソノミの構造

IFRSタクソノミを使用して作成するタクソノミの構造は、以下の図2-1のようになります。企業別タクソノミは、エントリーポイント、企業別タクソノミスキーマ及び企業別のリンクベースファイルから構成されます。

本書では、あるファイルが他のファイルを読み込むためにschemaRef要素やlinkbaseRef要素を用いることを「参照する」といい、import要素のschemaLocation属性を用いることを「インポートする」といいます。



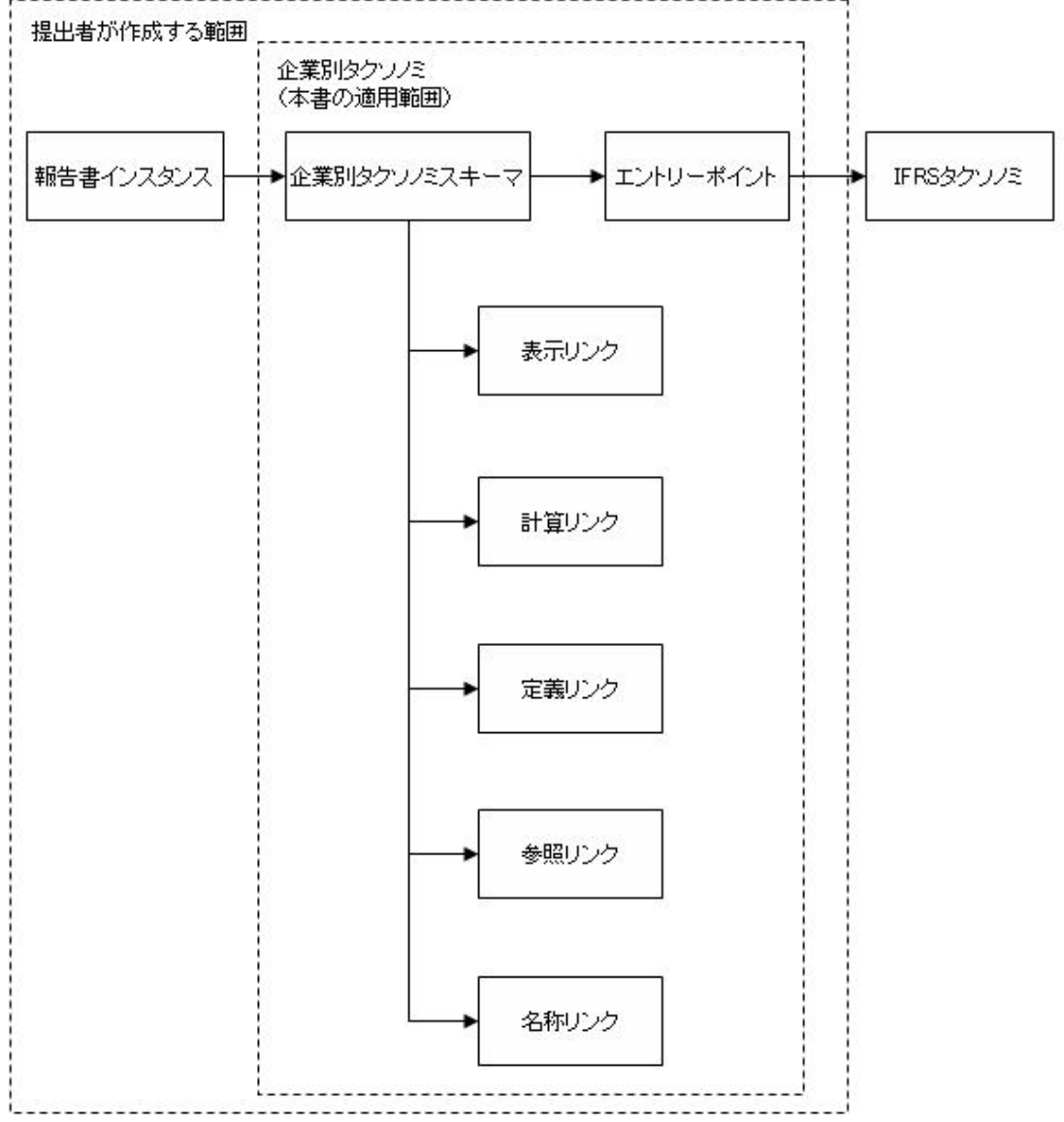
<凡例> → : 矢印の元がインポート元/参照元となり、
矢印の先がインポート先/参照先となる

図 2-1 タクソノミの構造

2-3-1 IFRS タクソノミについて

IFRSタクソノミでは、財務諸表や注記ごとにタクソノミが分けられています。必要に応じて使用する表示リンク、計算リンク、参照リンク、定義リンク、ジェネリックラベルリンク、ジェネリックリファレンスリンクを企業別タクソノミから参照します。

ジェネリックラベルリンクは拡張リンクロールのDefinitionの内容を英語以外の言語で定義したファイルです。また、ジェネリックリファレンスリンクは拡張リンクロールの根拠となるIFRSの基準の情報を定義したファイルです。提出会社はジェネリックラベルリンク、ジェネリックリファレンスリンクの拡張は行いません。IFRSタクソノミの構造の詳細について、図 2-2 に示します。



<凡例> → : 矢印の元がインポート元/参照元となり、
矢印の先がインポート先/参照先となる

図 2-1 タクソノミの構造

2-3-1 IFRSタクソノミについて

IFRSタクソノミでは、財務諸表や注記ごとにタクソノミが分けられています。必要に応じて使用する表示リンク、計算リンク、参照リンク、定義リンクを後述のエントリーポイントで参照します。

IFRSタクソノミの構造の詳細について、図 2-2 に示します。

IFRSタクソノミルート

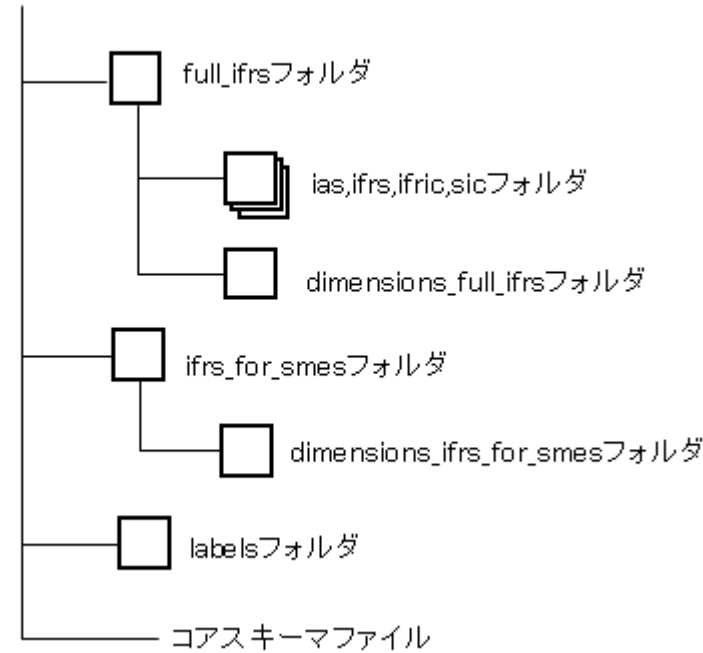


図 2-2 IFRS タクソノミの構造

IFRSタクソノミルート

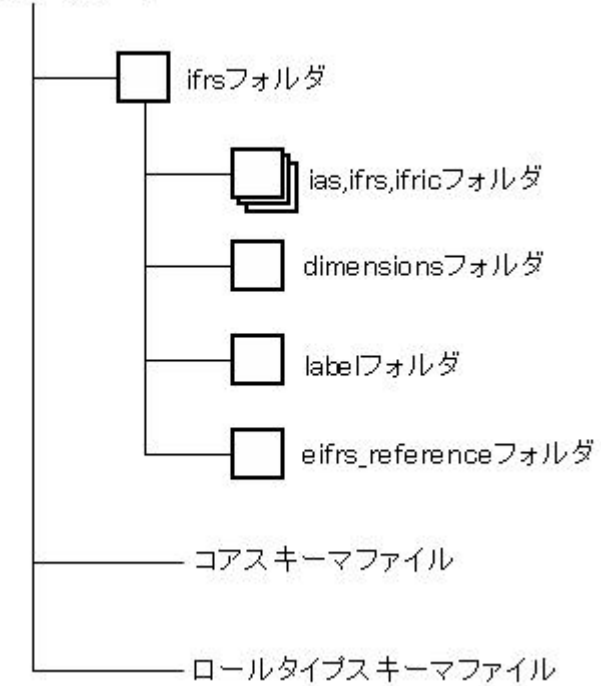


図 2-2 IFRS タクソノミの構造

・ full_ifrs、ifrs_for_smes フォルダ

full_ifrsフォルダには通常のIFRSタクソノミ、ifrs_for_smesフォルダには中小企業向けのIFRSタクソノミが格納されています。提出会社は原則としてfull_ifrsフォルダのIFRSタクソノミを利用して下さい。

・ ias、ifrs、ifric、sic フォルダ

IFRSの基準ごとに、各開示項目の情報が設定されています。

IFRSの基準ごとにフォルダが分かれており、各フォルダにロールタイプスキーマ、表示・計算・定義・参照・ジェネリックラベル・ジェネリックリファレンスリンクベースファイルが格納されています。

・ dimensions_full_ifrs、dimensions_ifrs_for_smes フォルダ

各財務諸表や注記で共通して利用されるXBRL Dimensionsの情報が設定されています。

各財務諸表や注記で利用されるXBRL Dimensionsのロールタイプスキーマ、定義・表示・ジェネリックラベル・ジェネリックリファレンスリンクベースファイルが格納されています。

・ labels フォルダ

要素の表示等に用いられる、IFRSタクソノミ全要素の名称が設定されています。

言語ごとに名称リンクベースファイルが格納されています。

・ (削る)

・ コアスキーマファイル (ifrs-cor_{公開日}.xsd)

IFRS タクソノミの全要素が定義されています。

・ (削る)

・ (新設)

・ ias、ifrs、ifric フォルダ

IFRSの基準ごとに、各開示項目の情報が設定されています。

IFRSの基準ごとにフォルダが分かれており、各フォルダにロールタイプスキーマ、表示・計算・定義・参照リンクベースファイルが格納されています。

・ dimensions フォルダ

各財務諸表や注記で共通して利用されるXBRL Dimensionsの情報が設定されています。

各財務諸表や注記で利用されるXBRL Dimensionsのロールタイプスキーマ、定義・表示リンクベースファイルが格納されています。

・ label フォルダ

要素の表示等に用いられる、IFRSタクソノミ全要素の名称が設定されています。

言語ごとに名称リンクベースファイルが格納されています。

・ eifrs_reference フォルダ

eIFRS (IASB Webサイト上のオンライン版IFRS) への参照情報が設定されています。

参照リンクベースファイルが格納されています。

・ コアスキーマファイル (ifrs-cor_{公開日}.xsd)

IFRSタクソノミの全要素が定義されています。

・ ロールタイプスキーマファイル (ifrs-roles_{公開日}.xsd)

IFRSタクソノミで独自に用いられる名称リンクや定義リンクのロールが設定されています。

ias、ifrs、ifric、sicフォルダやdimensions_full_ifrs、dimensions_ifrs_for_smesフォルダに含まれるリンクベースファイル (.xml) は、以下の通り、ファイル名の先頭3文字で区別することができます。

- ・pre 表示リンク
- ・cal 計算リンク
- ・def 定義リンク
- ・dim 定義リンク (dimensions_full_ifrs、dimensions_ifrs_for_smesフォルダ配下)
- ・lab 名称リンク
- ・ref 参照リンク
- ・gla ジェネリックラベルリンク
- ・gre ジェネリックリファレンスリンク

表示リンク、計算リンク、定義リンクについては、ファイル名に6桁の拡張リンクロールのロール番号が付与されています。各フォルダに格納されている、ファイル名の先頭3文字が「rol」であるスキーマファイル (.xsd) は、ロールタイプスキーマです。ロールタイプスキーマには拡張リンクロールの情報が定義されています。

(削る)

2-3-2 企業別タクソノミススキーマ及びリンクベースファイルについて

企業別タクソノミススキーマ及び企業別のリンクベースファイルは、使用する IFRS のコンポーネントを選択するために IFRS タクソノミに用意されている拡張リンクロールを参照し、企業拡張を設定するためのファイルです。IFRS タクソノミに適切な要素がない場合に、要素の追加及び名称又は表示リンク等の設定を可能としています。また、IFRS タクソノミの既存の表示リンク等の設定を変更する場合も企業別タクソノミススキーマ及び企業別のリンクベースファイルで設定します。企業別タクソノミの詳細は「5. スキーマファイルの作成」を参照して下さい。

IFRSタクソノミに用意されている拡張リンクロールの詳細は、「1-3 参考となる文書」に記載されているIFRS Taxonomy Guideを参照するか、または前述のIFRSの基準ごとのフォルダに格納されているロールタイプスキーマのdefinitionから確認することが可能です。

2-4 URL とインポート・参照関係について

2-4-1 URL

IFRSタクソノミの各ファイルのURLは、次のようになります。

http://xbrl.iasb.org/taxonomy/{公開日}/ifrs-cor_{公開日}.xsd
<http://xbrl.iasb.org/taxonomy/{公開日}/{フォルダ名}/{ファイル名}>

2-4-2 インポート・参照関係

企業別タクソノミがIFRSタクソノミの各ファイルをインポート又は参照する場合、上記URLに基づいて絶対パスでインポート又は参照します。

ias、ifrs、ifricフォルダやdimensionsフォルダに含まれるリンクベースファイル (.xml) は、以下の通り、ファイル名の先頭3文字で区別することができます。

- ・pre 表示リンク
- ・cal 計算リンク
- ・def 定義リンク
- ・ref 参照リンク
- ・dim 定義リンク (dimensionsフォルダ配下)
- ・lab 名称リンク

表示リンク、計算リンク、定義リンクについては、ファイル名に6桁の拡張リンクロールのロール番号が付与されています。

2-3-2 エントリーポイントについて

エントリーポイントは、使用する IFRS のコンポーネントを選択するために IFRS タクソノミに用意されている拡張リンクロールを参照するファイルです。企業別タクソノミにおいて IFRS タクソノミを利用することを可能にしています。企業別タクソノミの詳細は「5. スキーマファイルの作成」を参照して下さい。

IFRSタクソノミに用意されている拡張リンクロールの詳細は、「1-3 参考となる文書」に記載されているIFRS Taxonomy Guideを参照するか、または前述のIFRSの基準ごとのフォルダに格納されているロールタイプスキーマのdefinitionから確認することが可能です。

2-3-3 企業別タクソノミススキーマ及びリンクベースファイルについて

企業別タクソノミススキーマ及び企業別のリンクベースファイルは、エントリーポイントで参照した IFRS タクソノミに対して、企業拡張を設定するためのファイルです。IFRS タクソノミに適切な要素がない場合に、要素の追加及び名称又は表示リンク等の設定を可能としています。また、IFRS タクソノミの既存の表示リンク等の設定を変更する場合も企業別タクソノミススキーマ及び企業別のリンクベースファイルで設定します。企業別タクソノミの詳細は「5. スキーマファイルの作成」を参照して下さい。

2-4 URL とインポート・参照関係について

2-4-1 URL

IFRSタクソノミの各ファイルのURLは、次のようになります。

http://xbrl.iasb.org/taxonomy/{公開日}/ifrs-cor_{公開日}.xsd
http://xbrl.iasb.org/taxonomy/{公開日}/ifrs-roles_{公開日}.xsd
<http://xbrl.iasb.org/taxonomy/{公開日}/ifrs/{フォルダ名}/{ファイル名}>

2-4-2 インポート・参照関係

エントリーポイントがIFRSタクソノミの各ファイルをインポート又は参照する場合、上記URLに基づいて絶対パスでインポート又は参照します。

3-2 企業別タクソノミの作成フロー

1. DTS(Discoverable Taxonomy Set)の確定

提出会社は、企業別タクソノミを必ず作成します。

企業別タクソノミでは、IFRSタクソノミ及びIFRSタクソノミに用意されている日本語ラベルをインポート・参照します。

2. 使用する要素の決定及び設定(要素、名称リンク、定義リンクの追加)

IFRSタクソノミより、使用する要素を選択・決定します。IFRSタクソノミに適切な要素がない場合、提出会社は、企業別タクソノミ上で新規に要素を追加します。要素を追加した場合、合わせて名称リンク、定義リンクを企業別タクソノミに設定します。

なお、XBRL Dimensionsを利用する際には、Hypercube要素などの表を構成するために必要な要素の追加が必要となります。

※IFRSタクソノミ2010ではIFRSタクソノミ2009と異なり、提出会社が要素を追加した場合に参照リンクの設定を行わないことに留意して下さい。

3-2 企業別タクソノミの作成フロー

1. DTS(Discoverable Taxonomy Set)の確定

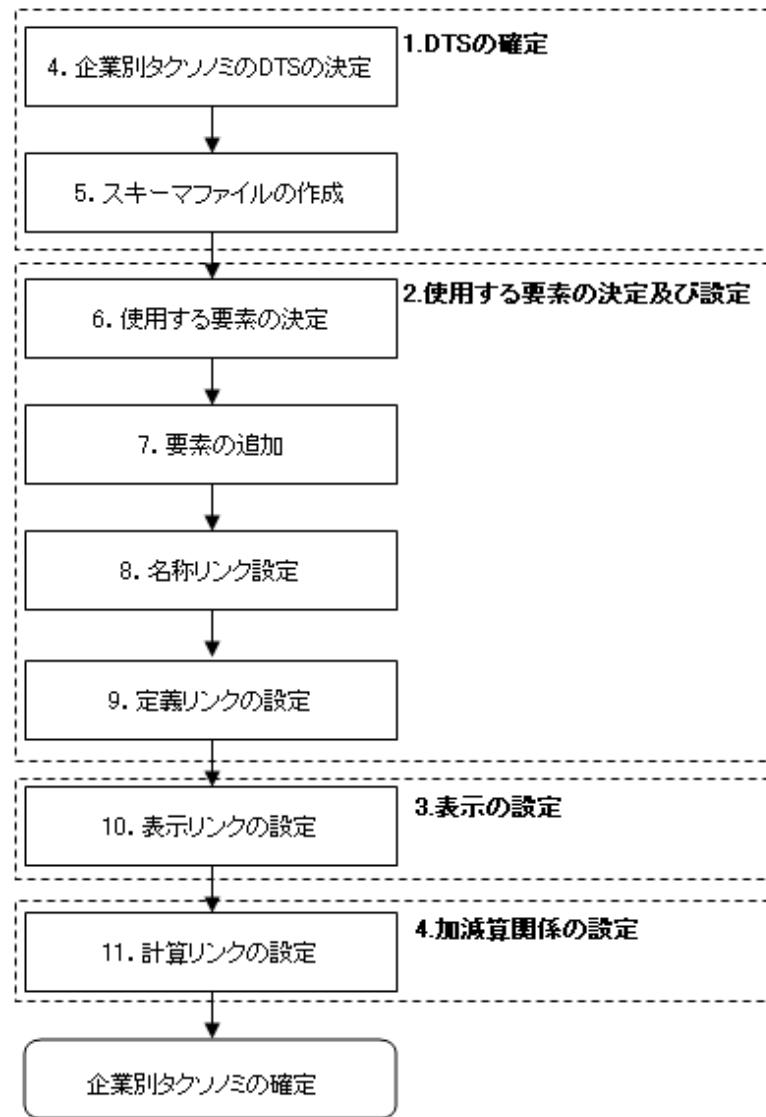
提出会社は、企業別タクソノミを必ず作成します。

企業別タクソノミでは、エントリーポイントを作成しIFRSタクソノミをインポート・参照します。
また、IFRSタクソノミに用意されている日本語ラベルも参照します。

2. 使用する要素の決定及び設定(要素、名称リンク、参照リンク、定義リンクの追加)

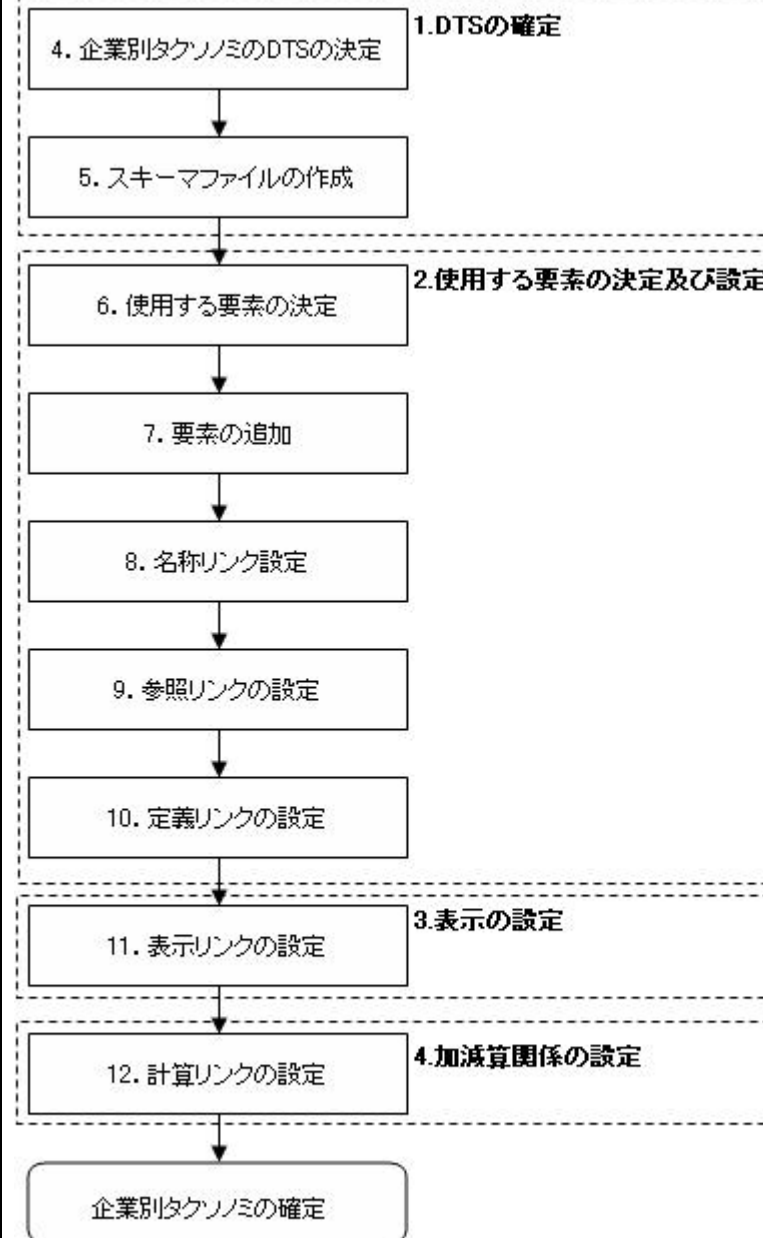
IFRSタクソノミより、使用する要素を選択・決定します。IFRSタクソノミに適切な要素がない場合、提出会社は、企業別タクソノミ上で新規に要素を追加します。要素を追加した場合、合わせて名称リンク、参照リンク、定義リンクを企業別タクソノミに設定します。

なお、XBRL Dimensionsを利用する際には、Hypercube要素などの表を構成するために必要な要素の追加が必要となります。



<凡例> :本書の目次に対応しています。

図 3-1 企業別タクソノミの作成プロセスと本書の目次との対応関係



<凡例> :本書の目次に対応しています。

図 3-2 企業別タクソノミの作成プロセスと本書の目次との対応関係

4. 企業別タクソノミのDTSの決定

企業別タクソノミのDTSの決定は、企業別タクソノミ作成の最初の段階です。この段階ではインポート・参照すべきIFRSタクソノミを選択して、企業別タクソノミの構成を決定します。

4-1 IFRSタクソノミの選択

DTSの決定では、使用するIFRSのコンポーネントを選択します。作成する開示書類の様式や記載する注記に基づいて、IFRSタクソノミより使用する拡張リンクロールを選択します。

注記部分では、同じ拡張リンクロール番号で、末尾にアルファベットが付与されている複数の拡張リンクロールが存在する場合があります。それぞれ設定されている勘定科目が異なりますので、提出会社は開示内容に適した拡張リンクロールを使用して下さい。

例：「注記 - 初度適用」について、[819100a]、[819100b]等が用意されている。

なお、拡張リンクロール番号[110000]の「財務諸表に関する全般的情報」の参照は必須です。

5-1-1 ファイル構成

企業別タクソノミは、1つの企業別タクソノミスキーマファイル及び複数のリンクベースファイルで構成します。

企業別タクソノミスキーマファイルの作成は必須です。リンクベースファイルは、提出会社が拡張する内容により要否が異なります。

5-1-2 ファイル名

企業別タクソノミのファイルの命名規約については、「企業別タクソノミ作成ガイドライン（その1）」を参照して下さい。その際、名前空間プレフィックスは、「5-1-5 名前空間プレフィックス」に示すようにEDINETタクソノミを使用する場合と設定値が異なることに留意して下さい。

5-2 IFRSタクソノミのインポート・参照

企業別タクソノミスキーマファイルを作成した後、まずIFRSタクソノミのコアスキーマをインポートします。

次に、「4-1 IFRSタクソノミの選択」及び「4-2 日本語ラベルの選択」で選択したコンポーネントに対応するリンクベースファイルのURLをlinkbaseRef要素のhref属性に設定します。その際、選択した拡張リンクロールに対応する表示リンク、定義リンク、計算リンク、参照リンク、ジェネリックラベルリンク、ジェネリックリファレンスリンクはすべて参照します。さらに、選択した拡張リンクロールに対応するロールタイプスキーマをインポートします。

注意：企業別タクソノミスキーマファイルはEDINETタクソノミや、EDINETタクソノミを拡張した企業別タクソノミのインポートを行わないものとします

例1：IFRSタクソノミのコアスキーマのインポート

企業別タクソノミスキーマファイルがIFRSタクソノミのコアスキーマをインポートする場合
schemaLocation="http://xbrl.iasb.org/taxonomy/{公開日}/ifrs-cor_{公開日}.xsd"

4. 企業別タクソノミのDTSの決定

企業別タクソノミのDTSの決定は、企業別タクソノミ作成の最初の段階です。この段階ではエントリーポイントでインポート・参照すべきIFRSタクソノミを選択して、企業別タクソノミの構成を決定します。

4-1 IFRSタクソノミの選択

DTSの決定では、使用するIFRSのコンポーネントを選択します。作成する開示書類の様式や記載する注記に基づいて、IFRSタクソノミより使用する拡張リンクロールを選択します。

なお、拡張リンクロール番号[110000]の「財務諸表に関する全般的情報」の参照は必須です。

5-1-1 ファイル構成

企業別タクソノミは、1つの企業別タクソノミスキーマファイル及びエントリーポイント並びに複数のリンクベースファイルで構成します。

企業別タクソノミスキーマファイルとエントリーポイントの作成は必須です。リンクベースファイルは、提出会社が拡張する内容により要否が異なります。

5-1-2 ファイル名

企業別タクソノミのファイルの命名規約については、「企業別タクソノミ作成ガイドライン（その1）」を参照して下さい。その際、名前空間プレフィックスは、「5-1-5 名前空間プレフィックス」に示すようにEDINETタクソノミを使用する場合と設定値が異なることに留意して下さい。

IFRSタクソノミを使用する場合にのみ必要な企業別タクソノミのファイルの命名規約を表5-1に示します。また、参照リンクを作成する場合の設定値を他のリンクベースファイルに準じて表5-2に示します。

5-2 IFRSタクソノミとエントリーポイントのインポート

企業別スキーマファイル及びエントリーポイント等を作成した後、まずエントリーポイントにIFRSタクソノミのコアスキーマ及びコアスキーマと同一階層のロールタイプスキーマをインポートします。

また、「4-1 IFRSタクソノミの選択」及び「4-2 日本語ラベルの選択」で選択したコンポーネントに対応するリンクベースファイルのURLをlinkbaseRef要素のhref属性に設定します。その際、選択した拡張リンクロールに対応する表示リンク、定義リンク、計算リンク、参照リンクはすべて参照します。さらに、選択した拡張リンクロールに対応するロールタイプスキーマをインポートします。

次にimport要素を用いて、作成したエントリーポイントを企業別タクソノミスキーマファイルにインポートします。エントリーポイントをインポートする場合、エントリーポイントのファイル名を相対パスとしてimport要素のschemaLocation属性に設定します。

注意：企業別タクソノミスキーマファイルは1つのエントリーポイントしかインポートできません。なお、エントリーポイントは1つ以上のIFRSタクソノミをインポートします。

また、EDINETタクソノミや、EDINETタクソノミを拡張した企業別タクソノミのインポートは行わないものとします

例1：IFRSタクソノミのコアスキーマのインポート

エントリーポイントがIFRSタクソノミのコアスキーマをインポートする場合
schemaLocation="http://xbrl.iasb.org/taxonomy/{公開日}/ifrs-cor_{公開日}.xsd"

例2：IFRSタクソノミのリンクベースの参照

- ・企業別タクソノミスキーマファイルがIFRSタクソノミのリンクベース（[110000]の「財務諸表に関する全般的情報」の表示リンク）を参照する場合

href="http://xbrl.iasb.org/taxonomy/{公開日}/full_ifrs/ias_1_{公開日}/pre_ias_1_{公開日}_role-110000.xml"

- ・企業別タクソノミスキーマファイルがIFRSタクソノミの日本語ラベルを参照する場合

href="http://xbrl.iasb.org/taxonomy/{公開日}/labels/lab_ifrs-ja_{公開日}.xml"

(削る)

表 6-1 1軸のXBRL Dimensions で用いる要素の概略

No	要素の種類	概略	各要素に関する設定時に特に注意を要する箇所(※)
1	Primary item	XBRL Dimensionsによる表における主たる軸を構成する要素です。インスタンスにおいては、これらの要素に対して、Memberごとの値を入力することになります。 図6-1における「売上」、「原価」の各要素が該当します。	
2	Hypercube要素	XBRL Dimensionsによる表の設定を宣言するための要素です。Primary itemの親要素に対して設定します。	・標準ラベル ・代替グループ ・定義リンク
3	Dimension要素	XBRL Dimensionsによる表において従たる軸（Primary item以外の軸）を設定するための要素です。	・標準ラベル ・代替グループ ・定義リンク
4	Domain	Primary item以外の軸の構成要素の親要素です。Dimension要素で表される各軸に対して必ず設定します。「Default」と同じ要素を用います。	・定義リンク
5	Default	軸の構成要素の合計を表します。「Domain」と同じ要素を用います。 図6-1における「地域（合計）」が該当します。	・定義リンク
6	Member	軸の構成要素です。 図6-1における「A地域」、「B地域」の各要素が該当します。	・定義リンク

※各要素の設定の詳細は「7. 要素の追加」以降の各項目を参照して下さい。

■ Memberのみ追加する場合

IFRSタクソノミにHypercube要素、Dimension要素及びDomainが用意されているXBRL Dimensionsを利用する場合、必要に応じてMemberを追加する必要があります。Memberはデータ型を「domainItemType」に設定します。データ型については「07-3 データ型(type)」を参照してください。

追加したMemberは定義リンクに設定します。定義リンクの設定については「9. 定義リンクの設定」を参照して下さい。

例2：IFRSタクソノミのリンクベースの参照

- ・エントリーポイントがIFRSタクソノミのリンクベース（[110000]の「財務諸表に関する全般的情報」の表示リンク）を参照する場合

href="http://xbrl.iasb.org/taxonomy/{公開日}/ifrs/ias_1_{公開日}/pre_ias_1_{公開日}_role-110000.xml"

- ・エントリーポイントがIFRSタクソノミの日本語ラベルを参照する場合

href="http://xbrl.iasb.org/taxonomy/{公開日}/ifrs/label/lab_ifrs-ja_{公開日}.xml"

例3：エントリーポイントのインポート

企業別タクソノミスキーマファイルがエントリーポイントをインポートする場合

schemaLocation="ifrs-{報告書}-{EDINETコード}-{追番}-{報告対象期間末日}-{提出回数}-{提出日}-entrypoint.xsd"

表 6-1 1軸のXBRL Dimensions で用いる要素の概略

No	要素の種類	概略	各要素に関する設定時に特に注意を要する箇所(※)
1	Primary item	XBRL Dimensionsによる表における主たる軸を構成する要素です。インスタンスにおいては、これらの要素に対して、Memberごとの値を入力することになります。 図6-1における「売上」、「原価」の各要素が該当します。	
2	Hypercube要素	XBRL Dimensionsによる表の設定を宣言するための要素です。Primary itemの親要素に対して設定します。	・冗長ラベル ・代替グループ ・定義リンク
3	Dimension要素	XBRL Dimensionsによる表において従たる軸（Primary item以外の軸）を設定するための要素です。	・冗長ラベル ・代替グループ ・定義リンク
4	Domain	Primary item以外の軸の構成要素の親要素です。Dimension要素で表される各軸に対して必ず設定します。「Default」と同じ要素を用います。	・定義リンク
5	Default	軸の構成要素の合計を表します。「Domain」と同じ要素を用います。 図6-1における「地域（合計）」が該当します。	・定義リンク
6	Member	軸の構成要素です。 図6-1における「A地域」、「B地域」の各要素が該当します。	・定義リンク

※各要素の設定の詳細は「7. 要素の追加」以降の各項目を参照して下さい。

■ Memberのみ追加する場合

IFRSタクソノミにHypercube要素、Dimension要素及びDomainが用意されているXBRL Dimensionsを利用する場合、必要に応じてMemberを追加する必要があります。Memberは通常の見出しとして値を持たない要素と同様に追加し、定義リンクに設定します。定義リンクの設定については「9. 定義リンクの設定」を参照して下さい。

7. 要素の追加

「6. 使用する要素の決定」で要素の追加が必要と決定した場合、企業別タクソノミ上で新規に要素を追加します。

7-3 データ型 (type)

企業別タクソノミにおいて追加する要素には、当該要素が持つ値に応じたデータ型を設定します。金額を値として持つ場合はデータ型「monetaryItemType」、株式数の場合は「sharesItemType」、日付の場合は「dateItemType」、それ以外の数値の場合は「decimalItemType」を設定します。文字列を値として持つ要素、見出しとして値を持たない要素、Hypercube要素、Dimension要素には、「stringItemType」を設定します。Domain、Memberには「domainItemType」を設定します。

また、必要に応じてXBRL Specification2.1に定義されているデータ型や、Data Type Registry (以下「DTR」という。)に登録されているデータ型を利用することが可能です。DTRはXBRL Internationalによって公開されています。詳細は、XBRL InternationalのWebサイト (<http://www.xbrl.org/dtr/>) を参照して下さい。

表 8-1 設定対象のラベルロールの一覧

No	名称	ラベルロール	説明	要否	言語
1	標準ラベル	label ^{※1}	標準に設定するラベル	◎	日・英
2	合計ラベル	totalLabel ^{※1}	合計を表すラベル	○	日・英
3	期首ラベル	periodStartLabel ^{※1}	期首を表すラベル	○	日・英
4	期末ラベル	periodEndLabel ^{※1}	期末を表すラベル	○	日・英
5	略称ラベル	terseLabel ^{※1}	略称を表すラベル	○	日・英
6	負値ラベル	negativeLabel ^{※1}	負値の場合のラベル	○	日・英
7	正值ラベル	positiveLabel ^{※1}	正值の場合のラベル	○	日・英
8	純額ラベル	netLabel ^{※2}	純額を表すラベル	○	日・英
9	符号反転標準ラベル	negatedLabel ^{※2}	符号反転の標準ラベル	○	日・英
10	符号反転合計ラベル	negatedTotalLabel ^{※2}	符号反転の合計ラベル	○	日・英
11	符号反転期首ラベル	negatedPeriodStartLabel ^{※2}	符号反転の期首ラベル	○	日・英
12	符号反転期末ラベル	negatedPeriodEndLabel ^{※2}	符号反転の期末ラベル	○	日・英
13	符号反転略称ラベル	negatedTerseLabel ^{※2}	符号反転の略称ラベル	○	日・英

※1: “<http://www.xbrl.org/2003/role/>” に続くロールの名称のみを記載。

※2: “<http://www.xbrl.org/2009/role/>” に続くロールの名称のみを記載

凡例 ◎: 必須 ○: 要素の性質に応じて設定

7. 要素の追加

「6. 使用する要素の決定」で要素の追加が必要と決定した場合、企業別タクソノミ上で新規に要素を追加します。その際、要素の追加は企業別タクソノミスキーマファイルで行い、エントリーポイントには要素を追加しないものとします。

7-3 データ型 (type)

企業別タクソノミにおいて追加する要素には、当該要素が持つ値に応じたデータ型を設定します。金額を値として持つ場合はデータ型「monetaryItemType」、株式数の場合は「sharesItemType」、日付の場合は「dateItemType」、それ以外の数値の場合は「decimalItemType」を設定します。文字列を値として持つ要素、見出しとして値を持たない要素、Hypercube要素、Dimension要素には、「stringItemType」を設定します。

また、必要に応じてXBRL Specification2.1に定義されているデータ型を利用することが可能です。

表 8-1 設定対象のラベルロールの一覧

No	名称	ラベルロール	説明	要否	言語
1	標準ラベル	label ^{※1}	標準に設定するラベル	◎	日・英
2	合計ラベル	totalLabel ^{※1}	合計を表すラベル	○	日・英
3	冗長ラベル	verboseLabel ^{※1}	全ての要素で一意的ラベル	○	日・英
4	期首ラベル	periodStartLabel ^{※1}	期首を表すラベル	○	日・英
5	期末ラベル	periodEndLabel ^{※1}	期末を表すラベル	○	日・英
6	略称ラベル	terseLabel ^{※1}	略称を表すラベル	○	日・英
7	負値ラベル	negativeLabel ^{※1}	負値の場合のラベル	○	日・英
8	正值ラベル	positiveLabel ^{※1}	正值の場合のラベル	○	日・英
9	純額ラベル	netLabel ^{※2}	純額を表すラベル	○	日・英
10	符号反転標準ラベル	labelNegated ^{※2}	符号反転の標準ラベル	○	日・英
11	符号反転合計ラベル	totalLabelNegated ^{※2}	符号反転の合計ラベル	○	日・英
12	符号反転期首ラベル	periodStartLabelNegated ^{※2}	符号反転の期首ラベル	○	日・英
13	符号反転期末ラベル	periodEndLabelNegated ^{※2}	符号反転の期末ラベル	○	日・英
14	符号反転略称ラベル	terseLabelNegated ^{※2}	符号反転の略称ラベル	○	日・英
15	符号反転純額ラベル	netLabelNegated ^{※2}	符号反転の純額ラベル	○	日・英

※1: “<http://www.xbrl.org/2003/role/>” に続くロールの名称のみを記載。

※2: “<http://xbrl.iasb.org/role/label/>” に続くロールの名称のみを記載

凡例 ◎: 必須 ○: 要素の性質に応じて設定

8-2-3標準ラベルの設定

標準ラベルで設定した値は、DTSにおいて言語ごとに一意となるものとします。具体的には、要素名に区切り文字をコロンで表し、親となる要素名を設定します。

例) 「流動負債」配下の「A引当金」の標準ラベルを「A引当金：流動負債」とします。

日本語標準ラベルを設定する場合、抽象要素には「[タイトル項目]」、Dimension要素には「[軸]」、Hypercube要素には「[表]」、text block要素には「[テキストブロック]」を標準ラベルの末尾に設定します。

英語標準ラベルを設定する場合、抽象要素には「[abstract]」、Dimension要素には「[axis]」、Hypercube要素には「[table]」、text block要素には「[text block]」を標準ラベルの末尾に設定します。

※text block 要素は、エスケープ文字を含む値を設定する場合に用いる要素です。

(削る)

10-2 表示リンクの設定

表示リンクを設定する前に、必ず次の作業を終了させて下さい。

- DTS の確定 (「4. 企業別タクソノミの DTS の決定」、 「5. スキーマファイルの作成」参照)
- IFRS タクソノミの使用する要素の決定 (「6. 使用する要素の決定」参照)
- 要素と名称の追加設定 (「7. 要素の追加」、 「8. 名称リンクの設定」参照)
- 要素追加時の定義リンクの設定 (「9. 定義リンクの設定」参照)

11-2 計算リンクの設定

計算リンクを設定する前に、必ず次の作業を終了させて下さい。

- DTS の確定 (「4. 企業別タクソノミの DTS の決定」、 「5. スキーマファイルの作成」参照)
- IFRS タクソノミの使用する要素の決定 (「6. 使用する要素の決定」参照)
- 要素と名称の追加設定 (「7. 要素の追加」、 「8. 名称リンクの設定」参照)
- 要素追加時の定義リンクの設定 (「9. 定義リンクの設定」参照)

12-1 持分変動計算書

持分変動計算書は、純資産の勘定科目と変動事由の組み合わせで、論理的にマトリックス形式であることができ、他の財務諸表とは異なる対応が必要となります。

IFRSタクソノミでは、持分変動計算書はXBRL Dimensionsを使用して表現されます。

具体的には、純資産の勘定科目がDimension要素 (「資本の内訳 [軸]」) のMember、変動事由がPrimary itemで表わされます。

12-1-1 項目追加時の各リンクベースの設定

純資産の勘定科目を追加する場合はMemberとして、変動事由を追加する場合はPrimary itemとして、表示リンク・計算リンク・定義リンクに要素を追加します。

(削る)

8-2-3標準ラベルの設定

DTSにおいて標準ラベルが一意とならない要素については、冗長ラベルを設定します。冗長ラベルで設定した値は、DTSにおいて他の要素の標準ラベル及び冗長ラベルと重複しないものとします。具体的には、要素の標準ラベル名に区切り文字をコロンで表し、親となる要素の標準ラベル名を設定します。

例) 「流動負債」配下の「A引当金」の冗長ラベルを「A引当金：流動負債」とします。

日本語冗長ラベルを設定する場合、抽象要素には「[タイトル項目]」、Dimension要素には「[ディメンション]」、Hypercube要素には「[ハイパーキューブ]」explanatory要素には「[説明]」を冗長ラベルの末尾に設定します。

英語冗長ラベルを設定する場合、抽象要素には「[abstract]」、Dimension要素には「[Dimension]」、Hypercube要素には「[Hypercube]」、explanatory要素には「[explanatory]」を冗長ラベルの末尾に設定します。

※explanatory要素は、文章での説明を設定する場合に用いる要素です。

9. 参照リンクの設定

11-2 表示リンクの設定

表示リンクを設定する前に、必ず次の作業を終了させて下さい。

- DTS の確定 (「4. 企業別タクソノミの DTS の決定」、 「5. スキーマファイルの作成」参照)
- IFRS タクソノミの使用する要素の決定 (「6. 使用する要素の決定」参照)
- 要素と名称の追加設定 (「7. 要素の追加」、 「8. 名称リンクの設定」参照)
- 要素追加時の参照リンクと定義リンクの設定 (「9. 参照リンクの設定」、 「10. 定義リンクの設定」参照)

12-2 計算リンクの設定

計算リンクを設定する前に、必ず次の作業を終了させて下さい。

- DTS の確定 (「04. 企業別タクソノミの DTS の決定」、 「5. スキーマファイルの作成」参照)
- IFRS タクソノミの使用する要素の決定 (「6. 使用する要素の決定」参照)
- 要素と名称の追加設定 (「7. 要素の追加」、 「8. 名称リンクの設定」参照)
- 要素追加時の参照リンクと定義リンクの設定 (「9. 参照リンクの設定」、 「10. 定義リンクの設定」参照)

13-1 持分変動計算書

持分変動計算書は、純資産の勘定科目と変動事由の組み合わせで、論理的にマトリックス形式であることができ、他の財務諸表とは異なる対応が必要となります。持分変動計算書へ勘定科目を追加する場合、その構造的な理由から、複数の要素設定が必要となります。

IFRSタクソノミでは、持分変動計算書の拡張リンクロールのロール番号が「610000」または「610005」(以下本項で、「通常ロール」とする)と、「620000」または「620005」(以下、本項で「alternativeロール」とする)の2種類のロールが設定されています。

13-1-1IFRSタクソノミでの各リンクベースの設定

表示リンク・計算リンクは、「通常ロール」と「alternativeロール」に、それぞれ縦・横の関係が設定されています。定義リンクは、「alternativeロール」のみに要素の概念関係が設定されています。

13-1-2項目追加時の各リンクベースの設定

表示リンク・計算リンクは、「通常ロール」と「alternativeロール」に、それぞれの縦・横の関係を意識して要素を追加します。

また、定義リンクは「alternativeロール」のみに要素の概念関係を追加します。